

伊達博物館改築事業基本計画策定に係る資料集
(第1回～第7回建替委員会/市民説明会・パブコメ前)

令和2年10月

宇和島市立伊達博物館建替委員会

目 次

1. 前提条件の整理	
(1) 伊達博物館の現況	1
(2) 現状の課題	5
2. 立地の検討	
(1) 立地の条件	6
(2) 立地候補の評価	9
3. 複合施設の検討	
(1) 複合施設の条件	13
(2) 複合候補の選定	14
4. 施設計画	
(1) 施設のコンセプト	16
(2) 施設整備の条件	18
(3) 展示計画	20
(4) 観光交流センターの役割と機能	23
(5) 施設規模の検討	24
(6) 施設ゾーニング	26
5. 配置計画	
(1) 立地の現況	28
(2) 配置の前提条件	29
(3) 駐車台数の検討	30
(4) 配置の検討	31
6. 事業概算	37
7. 事業スケジュール	38
8. 跡地利用計画	39
9. 資料編	40

1. 前提条件の整理

(1) 伊達博物館の現況

① 伊達博物館の概要

- ・施設名 宇和島市立伊達博物館
- ・所在地 愛媛県宇和島市御殿町9番14号
Tel : 0895-22-7776 Fax : 0895-22-7819
Mail : date-mu@city.uwajima.lg.jp
- ・建築年 1974 (昭和49)年 竣工
- ・改修年 2000 (平成12)年 大規模修繕
2013 (平成25)年 大規模修繕
- ・展示資料 「公益財団法人宇和島伊達文化保存会」が所蔵する宇和島伊達家所縁の文化財・資料
「絹本著色豊臣秀吉像」(国指定重要文化財)他 約4万点。
- ・開館時間 午前9時～午後5時 (但し、入館受付は午後4時30分まで)
- ・休館日 毎週月曜日及び年末年始は12月29日～1月3日
※但し、月曜日が国民の祝日にあたる場合は、翌火曜日休館
- ・入館料

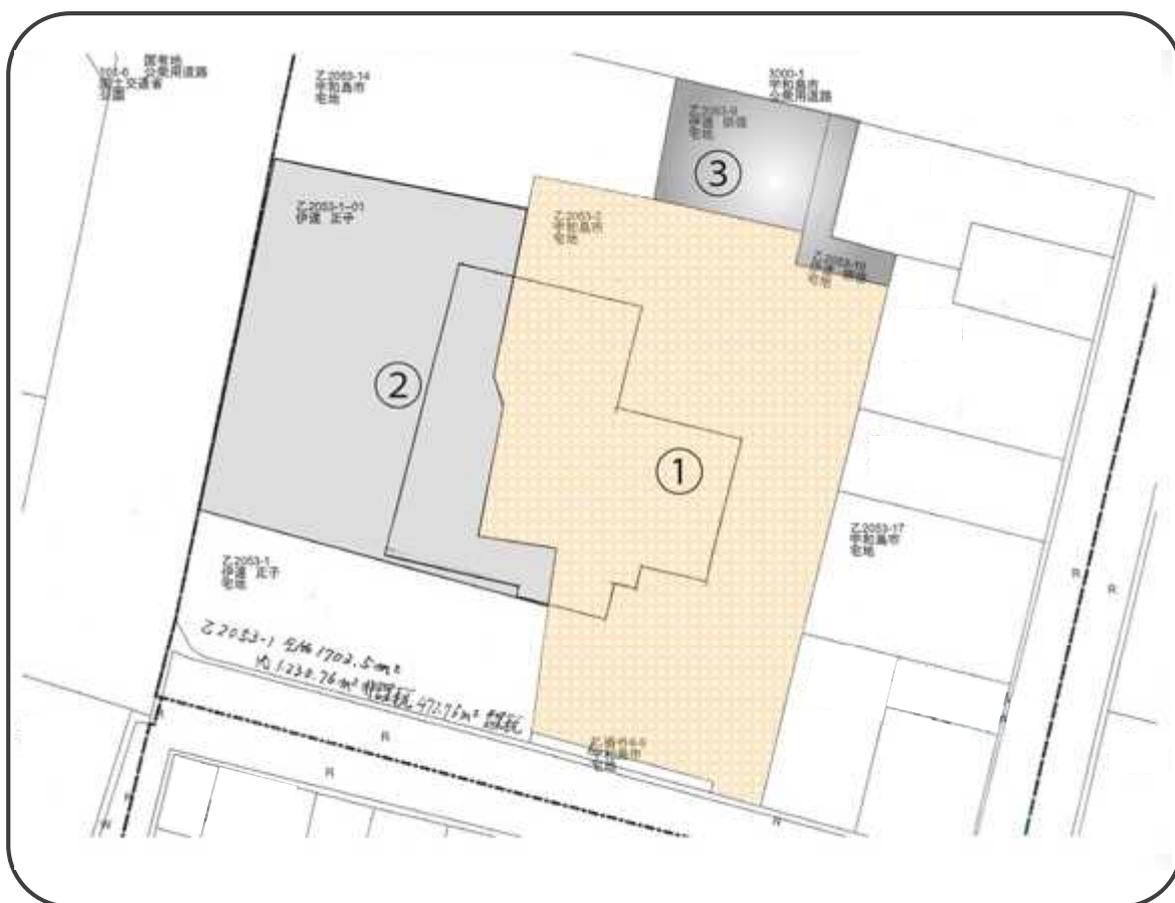
	大人	高校・大学生	敬老 (65歳以上)
一般	500円	400円	400円
団体 (20名以上)	400円	200円	400円
障がい	無料	無料	無料
中学生以下	無料	無料	無料

※2020 (令和2)年7月3日現在

- ・駐車場 普通車15台・大型バス4台

② 敷地の現況

敷地面積	3,583. 93 m ²	①+②+③
① 市有地	2,048. 47 m ²	駐車場側
② 伊達家より借用	1, 230. 76 m ²	偕楽園 ※無償
③ 伊達家より借用	304. 70 m ²	駐車場の城山側入り口付近 ※有償



③ 建物の現況



2階

構造： 鉄筋コンクリート造 地上2階建て

建築面積： 760.00 m²

延床面積： 1428.32 m²

展示面積： 697.52 m²

収蔵庫面積： 340.17 m²

面積表

第1展示室	243.24 m ²
第2展示室	156.48 m ²
第3展示室	163.32 m ²
第4展示室	134.48 m ²
収蔵庫	85.08 m ²
作業準備室	23.69 m ²
学芸室・研究室	18.62 m ²
その他	630.05 m ²

伊達家蔵 × 2棟	231.40 m ²
-----------	-----------------------



1階

④ 入館者数

伊達博物館、宇和島城、天赦園の来訪者数を下記に示す。

伊達博物館の来訪状況を見ると、ここ7年間の平均で1万9千人ほど訪れている。

2012（平成24）年には3万5千人の来訪があり、宇和島城の来訪者も5万4千人を超える年がある事から、地域としての潜在的ポテンシャルは5～6万人程度を有していると考えられる。

来場者数の推移（人）

年	宇和島城	天赦園	伊達博物館
2012（平成24）年	39,900	28,045	35,764
2013（平成25）年	36,181	20,076	12,852
2014（平成26）年	39,432	22,992	14,224
2015（平成27）年	51,768	27,166	24,548
2016（平成28）年	50,910	22,780	16,331
2017（平成29）年	54,594	21,307	17,350
2018（平成30）年	48,087	19,996	14,046
平均	45,839	23,195	19,302



宇和島城



天赦園



伊達博物館

(2) 現状の課題

① 建物の課題

- ・竣工から46年経過し、博物館本体及び設備の経年劣化が激しい。
- ・大雨が降ると地下から湧水がある。
- ・南海トラフ大地震（M8~M9）に対応できる耐震性がない。

② 博物館機能の課題

- ・文化財を保存・展示する環境としては、温湿度管理、空気環境面で十分ではない。
- ・展示室に対して、管理部門や収蔵部門の面積が非常に少ない。
- ・収蔵庫は本館内に約73㎡だけで、資料は別棟の蔵2棟に分散管理されている。
- ・別棟の蔵は木造で、火災や地震の被害を受ける危険性がある。
- ・また展示室への搬入は屋外を経由するので、資料毀損や防犯上のリスクがある。

③ サービス面の課題

- ・客用エレベーターがなく、2階展示室へは階段利用となる。
- ・多目的トイレにも段差があり、バリアフリーに課題がある。
- ・会議室や休憩コーナーがない。



伊達家木造蔵



コンクリートの剥離



大雨で地下から湧水

2. 立地の検討

(1) 立地の条件

以下4つの条件に該当する立地候補を抽出し、比較評価した。

① 都市再生整備計画事業（都市構造再編集中支援事業）を活用できること

新博物館建設にあたっては、国土交通省の都市再生計画事業（旧まちづくり交付金）を活用する。活用の条件は、立地適正化計画における都市機能誘導区域内であること。

宇和島市は立地適正化計画を2016（平成28）年に策定済みであり、その中で現在の伊達博物館周辺は、都市機能誘導区域と位置づけられている。



② 宇和島市都市計画マスタープランに準じること

宇和島市都市計画マスタープランにおいて、「伊達文化エリア」では、伊達博物館の施設拡張及び充実をこれからのエリア課題として位置づけられている。

個別計画

2 宇和島市都市計画マスタープラン

これまでの取組

宇和島地域

これからの課題

エリア別構想

- 医療・福祉機能を生かした中心市街地の活性化、にぎわいづくり
- 港湾機能を生かした産業拠点の形成
- 港と一体となった城山周辺の回遊性の創出によるまちなか観光の推進及びにぎわい再生
- JR宇和島駅周辺の整備

- 伊達文化エリア : 伊達博物館の施設拡張及び充実
- 宇和島城周辺エリア : 城山公園の計画的な整備・保全
歴史的資源(宇和島城や和霊神社など)の保存・活用

道の駅みなとオアシス きさいや広場

観光・休憩・飲食・土産物

パフィオうわじま

地域交流・生涯学習の拠点

市立宇和島病院

医療の拠点

木屋旅館

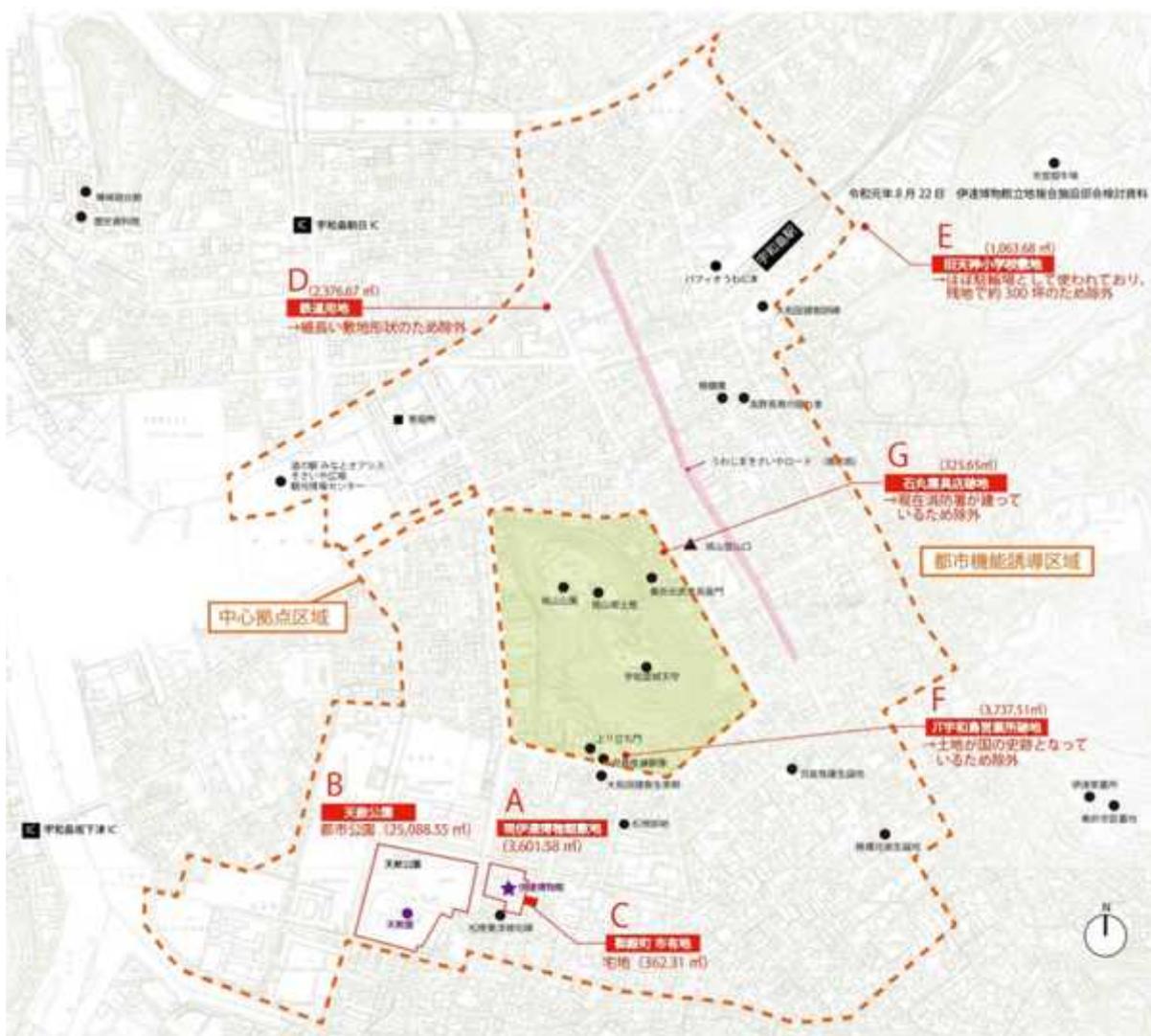
外国人交流・観光・アート

③ 現伊達博物館敷地と同等以上の面積であること

現伊達博物館の敷地面積は、3,583.93 m²。新博物館は、同等以上の面積とする。

④ 市有地であること

土地の取得に時間のかかる民有地はさけ、中心拠点区域内にある市有地及び伊達家の土地から立地候補を選定する。



	財産名称	所在	地籍
A	現伊達博物館敷地	御殿町 9-14	3,583.93 m ²
B	天赦公園	天赦公園 101-1	25,088.55 m ²
C	御殿町 市有地	御殿町乙 2053-17	362.31 m ²
D	鉄道用地	寿町 1 丁目 601	2,376.67 m ²
E	旧天神小学校敷地	天神町 230-1	1,063.68 m ²

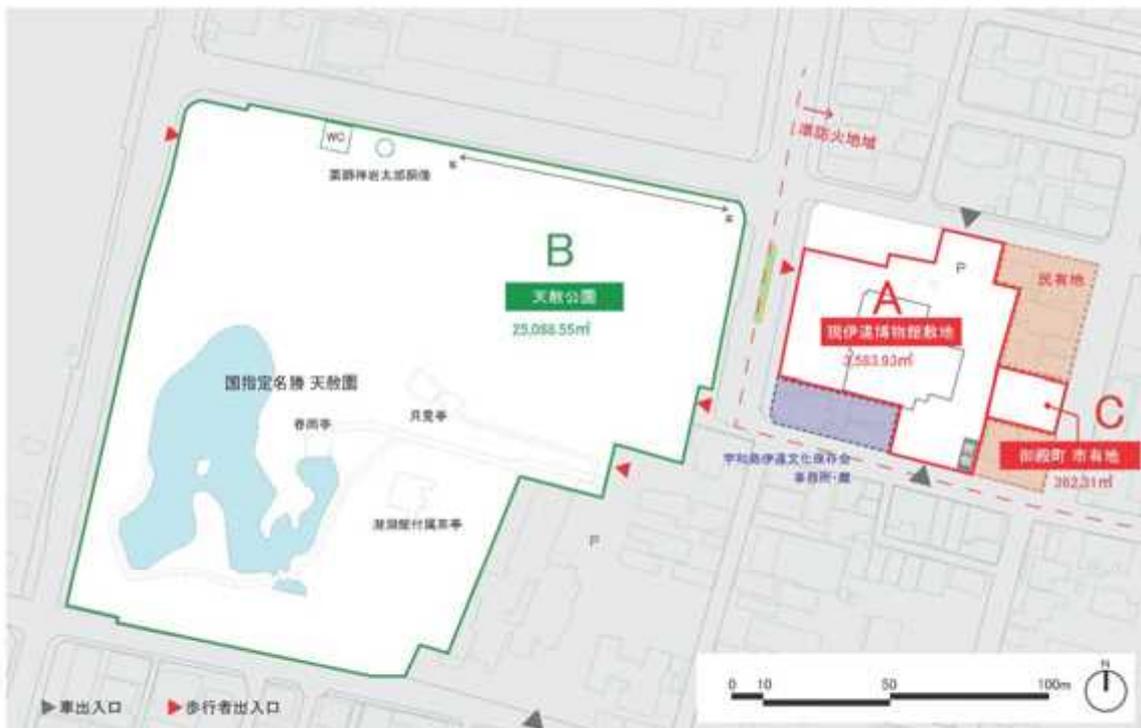
※ F JT 宇和島営業所跡地は、国の史跡になっているので除外。

※ G 石丸寝具店跡地は、消防署が建っているため除外。

(2) 立地候補の評価

前述の条件を満たす立地は、A 現伊達博物館敷地と B 天赦公園だけである。また伊達博物館の立地は、宇和島伊達家にゆかりのある土地である事が望ましいので、この2候補に絞って検証する。

① 立地候補の概要



	A 現伊達博物館	B 天赦公園
地名地番	愛媛県宇和島市御殿町 9-14	宇和島市天赦公園
地権者	市有地、伊達家より借用	市有地、伊達家より借用
都市計画区域内外	都市計画区域内	都市計画区域内
防火地域	準防火地域	—
その他区域、地域、地区又は街区	都市機能誘導区域内	都市公園（特殊公園/歴史） 都市機能誘導区域内
高度地区	なし	なし
道路幅員	西側全面道路 19.7m（最大）	東側全面道路 19.7m（最大）
敷地状況	既設建物あり	公園
敷地面積	3,583.93 m ²	25,088.55 m ²
用途地区	近隣商業地域	第1種住居地域
指定容積率／容積率限度	300% / 300%	200% /
指定建蔽率／建蔽率限度	80% / 90%	60% / 12% ※

② 立地候補の評価

建築面、運営面、防災面等の評価項目を掲げ、検証する。

		A 現伊達博物館	B 天赦公園	
1	延床面積限度	10,751.79 m ²		
2	建築面積限度	3,225.537 m ²	2,806.846 m ²	
3	駐車場（現状）	大型バス 4 台、一般 39 台（身障者 2 台）	（天赦園用）大型バス 1 台、一般 30 台	
4	法的要件	用途が柔軟で、高度利用可能	○ 建蔽率に限度がある。 （12%） 都市計画変更の可能性あり △	
5	土地取得にかかる期間、手続き	民有地取得の必要性がある場合に、土地収用法の事業認定を受ける場合には相当期間を要する。	△ なし ○	
6	災害の安全性	津波浸水深さ	3.0～4.0m △	4.0～5.0m △
		須賀川洪水浸水深さ ※1000年に1度の最大降雨を想定	0～3.0m 未満 △	0.5～3.0m 未満 ※指定緊急避難場所 △
		液状化の危険性（PL 値）	15 < PL ≤ 30 ※2番目に危険性が高い評価 △	30 < PL ※最も危険性が高い評価 △
7	近隣の地質、地下水位	シルト層 地下水位 1.54～1.9m △	シルト層 地下水位 1.54～1.9m △	
8	アクセス	JR 宇和島駅から 1.8km バス停（天赦園前）から 0km、宇和島朝日 IC から 1.5km △	JR 宇和島駅から 1.8km バス停（天赦園前）から 0km、宇和島朝日 IC から 1.5km △	
9	周辺施設との位置関係	天赦園・宇和島城に近い ○	公園内で天赦園と隣接、宇和島城に近い ○	

		A 現伊達博物館		B 天赦公園	
10	宇和島城への眺望	宇和島城天守閣を望むことができる	○	天赦園からの宇和島城の借景を妨げない配置を検討する必要がある	○
11	敷地形状による計画への影響	4面接道ではあるが、角地は1ヶ所で形状も歪であるため、計画への制約が大きい	△	公園・広場機能の維持に配慮しつつ柔軟に配置可能	○
12	施設の視認性、シンボル性	敷地形状に起因する要件のため、現状も施設の視認性は悪い	×	開放的な公園内に建設することで視認性は極めて良く、ランドマークとすることも可能	○
13	周辺への影響	周囲に民地が多く、完成後の日影や搬出入車両の出入り、工事中の騒音など、近隣への影響が大きい	×	公園内であるため、周辺への影響はほぼない 駐車場アクセスの自由度が高く、周辺への影響が少なく、安全な計画を実現可能	○
14	地域交流、賑わい創出の可能性	市道でへだてられているので、公園との連携が図りにくい	×	まとまった敷地で、天赦園含め豊かな外構の確保が可能 複合する施設との連携により、地域交流・賑わい拠点を形成することが可能	○
15	付帯集客施設誘致の可能性	法令上の制約がないため、飲食店を含め敷地内に誘致可能	○	都市再整備計画内で認められている簡易な休憩・物販等は誘致可能	△
16	観光拠点施設としての可能性	単独の施設としては、観光拠点施設とするにはリスクが高い 既存観光資源である天赦園との連携を図る必要がある	○	天赦園との連携や天赦公園の魅力向上と合わせて整備することで、観光拠点施設となる可能性を秘めている	○

		A 現伊達博物館		B 天赦公園	
17	博物館の休館期間	解体・新築工事、シーズン ング期間も含むため長期休 館となる	×	最小限にできる	○
18	資料保管・移設	別途保管場所の確保が必要	×	既存施設での保管が可能	○
19	公開承認施設届出	届出前5年間に、重要文化 財の公開3回以上必要 解体撤去されると、展示で きない（出張展示？）	×	移設ギリギリまで展示が可 能	○

③ 立地に係る考察

新博物館を天赦公園内に移転して建て替えることが望ましい

新博物館を天赦公園内に建設し、天赦園、天赦公園及び現博物館跡地を一体として再構築することにより「伊達文化エリア」の魅力を向上させ、基本理念である「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」をより具現化できる。

現在地で建て替える場合と比較して、現博物館の休館を最小限に抑えられる等、スケジュールの進めやすさに加え、資料の移動に対するリスクや費用面においても大きな優位性がある。

災害への安全性については、比較検討の数字として現在地で建て替える場合に優位性があるが、宇和島市防災マップ、須賀川洪水ハザードマップ及び宇和島市液状化マップのいずれも、現博物館と天赦公園の間にある市道に想定上の端境があるにすぎず、それぞれが隣接地であるため、実質的に大きな差異は無いと判断した。

※ 2019（令和元）年10月30日 「伊達博物館建替委員会複合施設専門部会答申書」より

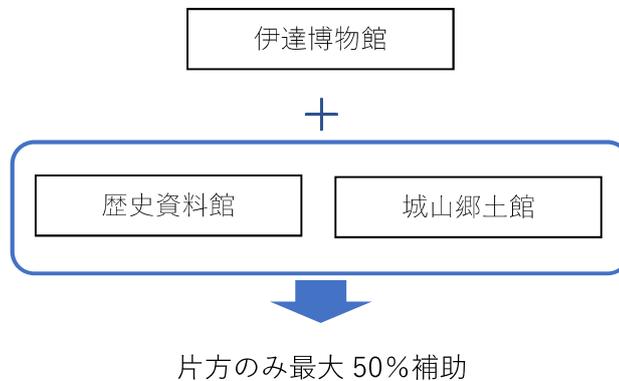
3. 複合施設の検討

(1) 複合施設の条件

都市再生整備計画事業（都市構造再編集中支援事業）における補助金交付の条件に、「施設の統廃合」あるいは「他の施設との合築」が支援要件となっている。

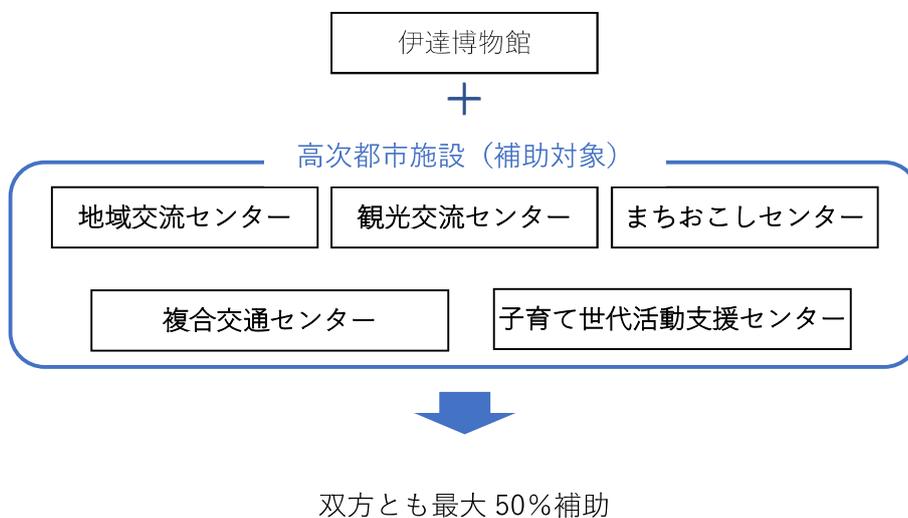
① 同種施設との統合について

2つの施設が同種の施設と見なされる場合、重複しての補助金交付はなく、いずれかの施設のみ交付対象となる。また「公共施設等総合管理計画」により、合算面積の制約を受ける可能性があることから、検討から除外する。



② 同種以外の施設との統合について

統合・合築相手が、同種施設以外で、補助金の交付対象施設であればともに交付対象となる。交付対象施設となる高次都市施設には、「複合交通センター」「子育て支援センター」「観光交流センター」「地域交流センター」「まちおこしセンター」がある。



(2) 複合施設の選定

複合交通センターと子育て支援センターについては、要件及び親和性の不一致から検討から除外し、観光交流センター、地域交流センター、まちおこしセンターに絞って比較検討する。

① 交付対象となる施設の概要

	観光交流センター	地域交流センター	まちおこしセンター
	観光客への観光案内や観光客と地域住民との交流のための施設	地域住民の相互交流を目的とした施設	地場産品等の地域資源を活かすための情報発信等を行うための施設
対象となる施設例	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が随時利用でき、地域住民と観光客の交流の場となる施設。 ・地域の観光情報の提供や地場物産等の紹介を行う「観光案内所」。 ・上記に付帯して整備される、観光客の休憩スペース、地域の文化・伝統を紹介できるスペース。 ・地元物産を紹介・即売するスペース（収益が維持・管理費程度。収益により施設整備費が回収できる場合は支援の対象外）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が随時利用でき、住民相互の交流の場となる多目的ホール、会議室。 ・各種の展示イベント等を開催し、地域活性化の拠点となる展示場、ギャラリー。 ・余暇活動など地域住民相互の交流の場となる活動スペース、スタジオ交流スペースと一体となった図書コーナー（独立したスペースでないもの）。 ・上記に付帯して整備される喫茶コーナー等（収益が維持・管理費程度。収益により施設整備費が回収できる場合は支援の対象外）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業振興、新ブランド創出のための開発・研究・展示施設。 ・上記に付帯して整備される地場産品等の体験工房や即売施設等の情報発信拠点施設（収益が維持・管理費程度）。 ・収益により施設整備費が回収できる場合は支援の対象外）。
該当しない施設	<p>交流が主たる目的ではなく、公共空間としての趣旨になじまない施設（名所旧跡のゲート施設、博物館、温泉施設）。</p> <p>地元物産品等の販売を主目的とする施設。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示を主目的とした施設（博物館、美術館等） ・その他地域住民の交流を目的とした施設でないもの（図書館等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産品等の販売を主目的とする施設

② 複合施設に係る考察

「観光交流センター」を合築相手とすることが望ましい

観光交流センターを合築相手とすることで、宇和島の総合的な文化・伝統を紹介し、地域住民と観光客の交流を促進することにより、基本理念である「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」をより具現化できる。併せて市民への郷土学習、生涯学習の機会創出や気軽に利用できる憩いの場としての役割も期待でき、歴史系博物館との親和性及び相乗効果を勘案し、最も適していると判断した。

※2019（令和元）年10月30日 「伊達博物館建替委員会複合施設専門部会答申書」より

4. 施設計画

(1) 施設のコンセプト

① 新博物館の基本理念

「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」

「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」

※宇和島市立伊達博物館改築事業基本構想より

② 新博物館のビジョン

新しい博物館は、宇和島市の多様で豊かな自然や歴史文化について、市民や来館者の皆さんとともに保全・継承し、その魅力を広く発信します。このことにより、宇和島市の特徴とすばらしさに気づき、地域をより良くしようとする人々が集い、誇りと活気に満ちた、美しいまちづくりを目指します。

※宇和島市立伊達博物館改築事業基本構想より

③ 新博物館の使命

新しい博物館は、かけがえのない地域の財産である歴史文化を保全・継承して、その魅力を広く発信するために、以下の使命を掲げて活動します。



市民の知的関心に応えるため、歴史文化に係る資料及び情報を収集し、それを調査研究し、展示・普及させることで歴史博物館としての役割を果たします。



地域の歴史文化に対する市民の理解を深め、また、理解しようとする人々の交流を促進し、良い未来に向かって市民とともに新しい価値を創造します。



魅力ある財産として地域の歴史文化に光をあて、その活用を通して、観光を中心とした地域振興に貢献します。

④ 新博物館の基本方針

新しい博物館は、使命に実現するために以下の取り組みを行う。

1

展示

- ①展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型及び参加体験型展示等の手法も取り入れ、わかりやすく親しみのある展示を行います。
- ②資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮します。
- ③資料の調査研究結果を展示に活用します。

2

資料の収集、 保管及び研究

- ①体系的に資料を収集、整理及び保管し、市民共有の財産として次世代に継承します。
- ②関係機関と協働して資料整理を行います。
- ③調査研究を継続的に行い、新たな事実や価値を発見して、博物館活動に反映します。

3

情報の 発信と連携

- ①歴史文化の研究拠点として情報を発信し、収集した資料、図書及び調査研究の成果を公開します。
- ②市民、来館者及び関係機関との連携を密にして、博物館活動を展開します。

4

教育普及

- ①調査研究に基づいた企画展や特別展を開催するとともに、講座や講演を通じて、市民の知的関心に応えるよう努力します。
- ②学校教育における歴史文化の学習を積極的に支援し、次世代を担う子供たちの郷土愛を育みます。
- ③市民や来館者と歴史文化を通じた交流を促進し、生涯学習や生きがいのづくりの推進に寄与します。

5

施設の 安全と管理

- ①安心と安全を第一に、誰にでもやさしい博物館運営を心がけます。
- ②引き継がれた歴史文化を確かに次世代につなぐため、想定される災害等の危機を管理できる設備の充実に努めます。

6

建設手法と コスト意識

- ①新博物館の建設にあたっては、都市再生整備計画事業を活用し、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりの拠点施設として、博物館機能と相乗効果を発揮できる施設と一体整備します。
- ②省エネルギー化や運営方法を工夫するなどして、施設維持費の縮減を目指します。

(2) 施設整備の条件

① 公開承認施設としての要件を満たすこと

宇和島伊達家はじめとする貴重な文化財や資料を保存・展示する新博物館の設計にあたっては、文化庁の指導を仰ぎ、公開承認施設としての要件を満たす施設として整備する。

重要文化財の所有者及び管理団体以外の者による公開に係る博物館その他の施設の承認に関する規定

平成8年8月2日 文化庁告示第9号 改正 平成8年8月30日文化庁告示第12号 より抜粋

(承認の基準) 第三条

- 三 博物館等の施設の建物及び設備が、次に掲げる要件を満たし、文化財の保存又は公開のために必要な措置が講じられていること。
- イ 建物が、耐火耐震構造であること。
- ロ 建物の内部構造が、展示、保存及び管理の用途に応じて区分され、防火のための措置が講じられていること。
- ハ 温度、相対湿度及び照度について文化財の適切に配置されていること。
- ニ 防火及び防犯のための設備が適切に配置されていること。
- ホ 観覧者等の安全を確保するための十分な措置が講じられていること。
- ヘ 博物館の施設が同一の建物内で他の施設（商業施設を除く）と併設されているときは、文化財の保存又は公開に係る設備が、当該博物館等の施設の専用のものであること。

② 災害に強い建物であること

30年以内に発生する確率が70~80%と言われている南海トラフ大地震。地震に伴う津波、液状化、近年多発する大雨や台風、急激な温湿度変化、火災、盗難・毀損事故などから、大切な文化財や資料を守ることでできる施設とすることは必須条件である。

特に新博物館の立地は液状化リスクが高いため、事前に土質調査等により地盤の特性を把握した上で、安全性の高い設計を行うことが重要である。

立地の災害リスク

津波浸水深さ	4.0~5.0m
須賀川洪水浸水深さ ※1000年に1度の最大降雨を想定	0.5~3.0m 未満 ※指定緊急避難場所
液状化の危険性 (PL 値)	30 < PL ※最も危険性が高い評価

※宇和島市防災マップ、須賀川洪水ハザードマップより

【建築設計の条件】

- ・耐震耐火構造であること。
- ・収蔵庫と文化財を公開する展示室は、地盤面より5m以上に設置すること。
- ・地質調査を行い、必要に応じて液状化対策を施すこと。
- ・必要に応じて、電源や設備のバックアップを用意すること。

(3) 展示計画

① 展示のコンセプト

宇和島圏域全体の歴史文化の魅力をわかりやすく紹介する

新博物館では、宇和島伊達文化保存会を中心とした文化財や資料を展示する企画展示室に加え、常設展示「宇和島の総合ガイド」を新設する。映像や参加体験型の展示などにより、親しみやすくわかりやすい展示手法で、旧宇和島城下にとどまらず吉田、三間、津島も含めた宇和島圏域全体の歴史文化を紹介。さらにギャラリーでは、宇和島や伊達家と親和性のあるテーマを中心とした幅広い利用を可能とし、宇和島圏域全体の文化芸術のプラットフォームとなるべく博物館を目指す。



宇和島のガイド

予備知識を得て
実物資料を鑑賞



宇和島伊達文化保存会を
中心とした展示と
文化財・美術品・資料の企画展示



宇和島や伊達家と親和性のある
幅広い期間限定催事

展示例

- ◆ 宇和島の歴史 ◆ 宇和島伊達家の歴!
- ◆ 宇和島の史跡 ◆ 宇和島城
- ◆ 宇和島の偉人 ◆ 天赦園
- ◆ 宇和島と小説

最近の企画展

- ◆ 秀吉、家康、政宗
- 宇和島伊達家との縁 —
- ◆ 紡がれし雛の習ひ
- 京都・老舗人形司の技と美 — 等

利用例

- ◆ 貸ギャラリー
- ◆ 講演会映像上映会
- ◆ ワークショップ
- ◆ 学校団体ガイド

② 展示室の仕様

- ・展示室は企画展示室、常設展示室合わせて現博物館の展示面積（697.52 m²）以上を確保。
- ・企画展示室は公開承認施設仕様とし、宇和島伊達文化保存会資料を中心とした展示と、文化財・美術品・資料の企画展示を行う。
- ・常設展示室は、映像、模型、参加体験型等、わかりやすく楽しい展示とする。
- ・ギャラリーは、多目的な利用に対応するものとする。
- ・ユニバーサルデザイン、多言語化に配慮する。

常設展示室	企画展示室	ギャラリー兼研修室
<ul style="list-style-type: none"> ・交流ゾーンに設置 ・映像、模型、参加体験型等 わかりやすく楽しい展示 ・一部展示替えに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開承認施設仕様 ・温度 22°C±2 ・湿度 55%±5 ・可動パーテーション ・地盤面より5 m以上に設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示、セミナー等多目的な 利用に対応 ・可動パーテーション

700 m²以上

③ 収蔵庫の仕様

収蔵庫は、現状（現博物館収蔵庫、倉庫、伊達家蔵2棟の合計 340.17 m²）以上の面積を確保。更に収蔵棚で収納量を拡大する。2室設け、1室は宇和島伊達文化保存会の資料、1室は宇和島市の資料を保存する。

収蔵庫 1	収蔵庫 2
<ul style="list-style-type: none"> ・宇和島伊達文化保存会所有の資料を保存 ・公開承認施設仕様 ・温度 22°C±2 ・湿度 55%±5 ・地盤面より5 m以上に設置 ・収蔵棚設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇和島市所有の資料を保存 ・公開承認施設仕様 ・温度 22°C±2 ・湿度 55%±5 ・地盤面より5 m以上に設置 ・収蔵棚設置

400 m²以上

④ 宇和島の歴史文化情報（参考資料）

中項目	内容
宇和島の歴史	縄文時代（御槨の縄文遺跡） 弥生時代（拝鷹山貝塚） 古墳・奈良・平安時代（藤原純友） 戦国時代（大森城と『清良記』、藤堂高虎） 江戸時代（宇和島伊達家） 幕末（四賢侯・伊達宗城） 明治時代（偉人たち） 宇和島市の誕生
宇和島の偉人	前原巧山、児島惟謙、土居通夫 穂積陳重、大和田建樹、油屋熊八、松根東洋城、山下亀三郎、畦地梅太郎 等
宇和島ゆかりの人物	高野長英、大村益次郎、楠本イネ、アーネスト・サトウ、田中九信、大宮庫吉、村井保固、清家吉次郎、井関邦三郎、兵頭賢一、高島華宵、獅子文六 等
宇和島と小説	司馬遼太郎、吉村昭、松本清張、檀一雄、山本周五郎、ドナルド・キーン、田山花袋、井上靖、胡桃沢耕史、藤枝静男 等
宇和島の文化財と名所	宇和島城（国指定史跡）、天赦園（国指定史跡）、豊臣秀吉画像（重要文化財）、遊子水荷浦の段畑（重要文化的景観）、伊予神楽（重要無形民俗文化財）、八幡神社のイブキ、正法寺観音堂、吉田秋祭り、岩松の町並み 等

※城山郷土館の展示構成より

(4) 観光交流センターの役割と機能

① 新博物館における交流ゾーンの役割

地域の歴史文化の再生・共創の場

新博物館内に併設する交流ゾーンは、従来型の観光交流センターではなく、市民による“地域の歴史文化の再生・共創の場”として活用。宇和島の歴史文化の価値を再確認し、地域への誇りと愛着を醸成すると同時に、宇和島の魅力を観光客はじめ国内外の来訪者に発信する場所である。



宇和島の文化に気軽に触れられる憩いの場

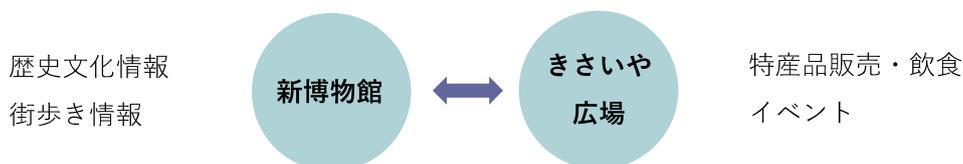
市民や観光客が宇和島の文化に気軽に触れられ、心地いい時間を共有できる機能を充実。ユニバーサルデザイン、多言語化など幅広い利用にも配慮したサービスを提供する。

諸室の機能

宇和島のガイドランス	ギャラリー兼研修室	交流ロビー
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇和島全体の歴史文化を紹介 ・ 企画展示鑑賞前の予備知識 ・ 地域学習の教材として活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展関連イベント ・ 展覧会、講演会、セミナー等 期間限定催事 ・ 学校団体、団体旅行客の ガイドランス ・ 友の会活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無料休憩場所 ・ 観光情報の提供 ・ 宇和島関連書籍の閲覧 ・ 宇和島文化体験 ・ ミュージアムショップ

② 市内観光交流施設とのすみ分け

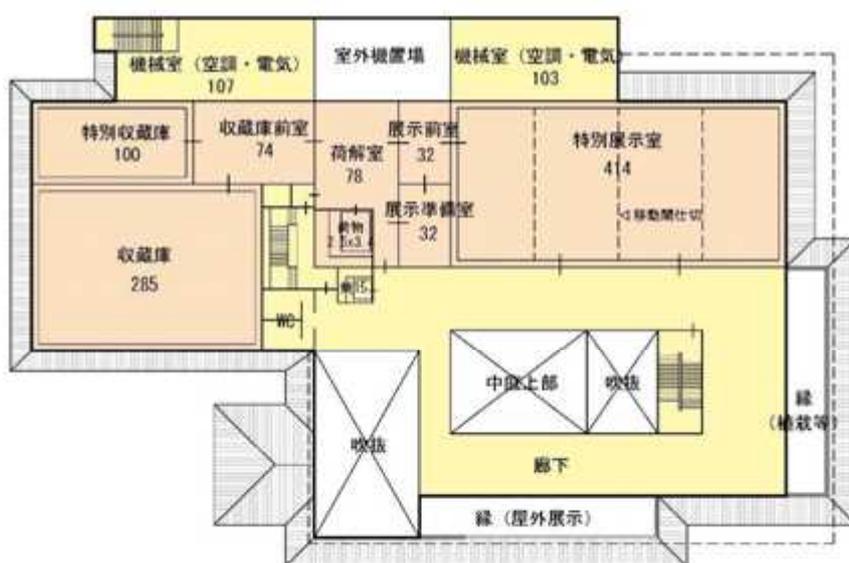
市内他の観光交流施設と役割が被らないよう配慮。特に「きさいや広場」とのすみ分けを図り、商業的役割はきさいや広場に任せ、当館では歴史文化や芸術など情報発信を中心とした施設とする。



(5) 施設規模の検討

① 延床面積の検討

博物館ゾーンは、地盤面より5m（2階）以上に設置する必要がある。企画展示室（400㎡想定）、収蔵庫（400㎡想定）に前室、展示準備室、機械室等関連諸室を加えると、2階以上に約2000㎡の床面積が必要となる。従って新博物館の延床面積は1階も含めると4000㎡程度必要になる。



新博物館 2階平面検討例

展示室と収蔵庫の面積

		現博物館		新博物館	
展示室	合計	697.52 ㎡		合計	700.00 ㎡
				企画展示室	400.00 ㎡
				常設展示室	300.00 ㎡
ケース	壁面ケース	56 m		展示ケース ※	50 m以上
収蔵庫	収蔵庫 + 倉庫 + 伊達家蔵 2 棟	340.17 ㎡		収蔵庫 2 室	400.00 ㎡

② 類似施設の事例

歴史博物館の全国上位 30% の平均値を示す。延床面積の平均は、約 3,000 m² である。そのうち公開承認施設をめざす萩博物館は 4268 m² である。

歴史博物館の上位 30% の平均数値

	延床面積 (m ²)	入館者数 (千人)
登録施設	6,884	105.1
相当施設	9,013	177.5
類似施設	2,923	59.7

資料：博物館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて

(2010 (平成 22) 年 3 月 文部科学省社会教育調査)

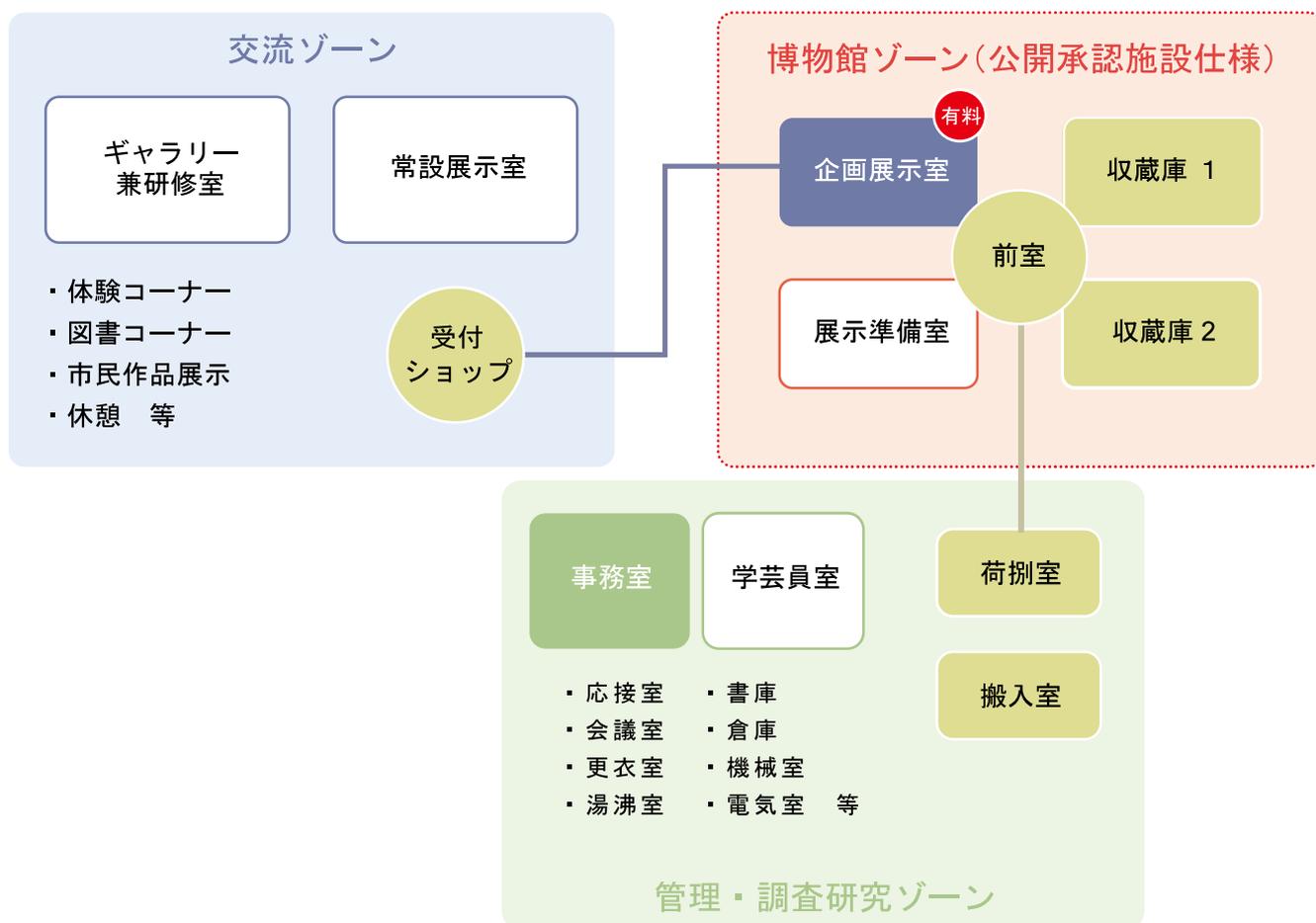
歴史を中心テーマとする博物館事例

施設名	米沢市上杉博物館 (文化ホール合築)	萩博物館	都留市博物館	伊達博物館
都市	山形県米沢市	山口県萩市	山梨県都留市	愛媛県宇和島市
人口	88,259 人	51,842 人	33,239 人,	74,823 人
開館	2001 (平成 13) 年	2004 (平成 16) 年	1999 (平成 11) 年	1974 (昭和 49) 年
延床面積	4,726 m ²	4,268 m ²	2,129 m ²	1,428 m ²
年間 入館者数	63,011 人 (H30 年度)	88,271 人 (H28 年度)	76,898 人 (H29 年度)	14,046 人 (H30 年度)
入館料	410 円	520 円	300 円	500 円

(6) 施設のゾーニング

① ゾーニングの考え方

- ・「博物館ゾーン」と市民や観光客が日常的に利用できる「交流ゾーン」、「管理・調査研究ゾーン」とで構成する。
- ・博物館ゾーンと交流ゾーンは防火上・防犯上明確に区別する。
- ・博物館ゾーンは、文化庁の指導を受け、公開承認施設仕様で設計する。
- ・文化財や資料を保存・公開する収蔵庫や企画展示室及び関連諸室は、津波や水害から守るため、地盤面より5m以上に設置する。
- ・交流ゾーンは、地域の歴史文化の再生と共創の場として役立てるため、誰でも利用しやすいように1階に設置する。

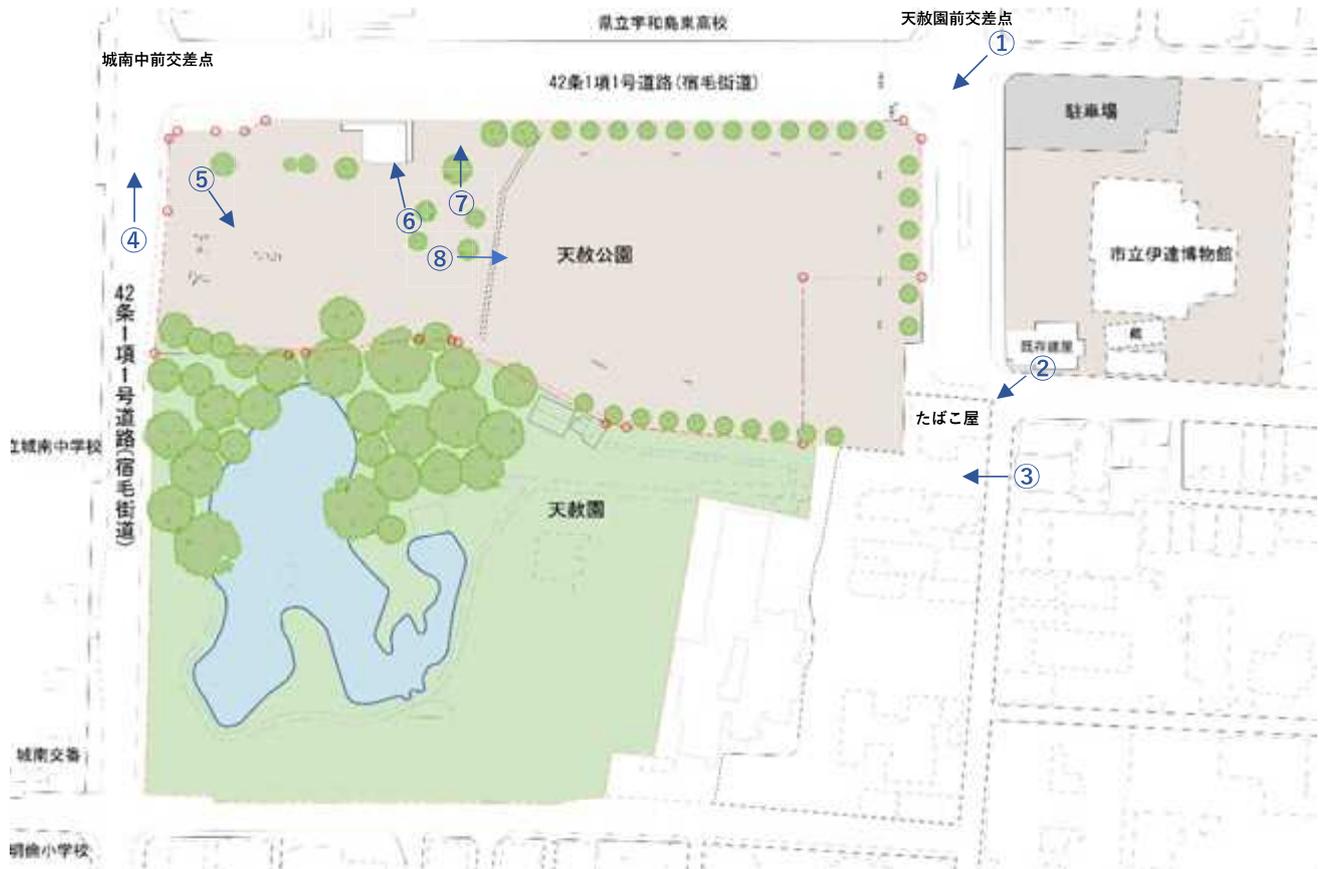


② 諸室構成案

部門	諸室	1階	2階以上	面積・㎡
博物館ゾーン	企画展示室	宇和島伊達文化保存会を中心とした文化財・資料の展示 温度22℃±2、湿度55%±5、単独空調 可動パーテーション		1207
	展示準備室			
	収蔵庫1	宇和島伊達文化保存会所有の資料を保存 ※6~8割古文書 温度22℃±2、湿度55%±5、単独空調 収蔵棚		
	収蔵庫2	宇和島市所有の資料を保存 ※古文書含む 温度22℃±2、湿度55%±5、単独空調 収蔵棚		
	前室			
	搬入室	4t美雨輸送車格納、排ガス対応、ホイストクレーン、床上げ300以上		
	荷捌室	写場兼用		
交流ゾーン	常設展示室	「宇和島の総合ガイド」展示		938
	ギャラリー兼研修室	50人以上収容、可動パーテーション、AV設備		
	倉庫			
	交流ロビー			
	図書コーナー	宇和島関連書籍の閲覧、観光情報		
	体験コーナー	市民作品展示、宇和島文化体験等		
	コインロッカー			
	トイレ（男・女）			
	多目的トイレ			
受付・ショップ				
共用・管理・調査研究	トイレ（男・女）			1848
	授乳室			
	風除室			
	その他	エントランス、階段、廊下		
	事務室			
	学芸員室			
	書庫	移動式書架		
	会議室	古文書の閲覧にも対応		
	応接室			
	給湯室			
	更衣室	男女別		
	倉庫			
	トイレ（男・女）	スタッフ用		
	設備スペース	衛生		
機械室	空調・電気・EV			
合計		2099	1894	3993

5. 配置計画

(1) 立地の現況



①天赦園前交差点



②たばこ屋



③天赦園入口



④城南中前交差点



⑤屋外遊具



⑥既設トイレ



⑦薬師神岩太郎銅像



⑧天赦公園

(2) 配置の前提条件

天赦園、現博物館敷地含め「伊達文化エリア」全体の魅力を向上させること

新博物館だけでなく、天赦園、現博物館敷地、偕楽園まで含めた地域全体の観光魅力を向上させ、観光交流人口拡大、市民の利用頻度向上に貢献できる配置とする。



天赦園

天赦園から宇和島城への眺望を確保すること

天赦園から宇和島城への眺望に配慮し、新博物館で遮られないように計画する。さらに新博物館から宇和島城への眺望を確保することも望ましい。



天赦園から見える宇和島

天赦公園の機能を継承すること

市民の憩いの場である現天赦公園の公園機能を、遊具広場、トイレ含め継承する。新博物館で分断・分散させることなく、まとまった広場を確保する。



天赦公園の遊具

駐車場を確保すること

駐車台数は必要数を確保。位置については利便性や安全性を考慮し検討する。



現博物館の駐車場

市民利用を促進できる配置とすること

宇和島城側からだけでなく、現博物館側（市立宇和島病院側）、明倫小学校や城南中学校からのアクセスにも配慮し、市民の積極的な活用を促進できる配置とする。

(3) 駐車台数の検討

① 現在の駐車台数

	大型バス	一般用	身障者用	備考
現伊達博物館駐車場	4台	15台	0台	無料
天赦公園駐車場	0台	19台	2台	無料
合計	4台	32台	2台	

② 駐車場附置義務について

- ・ 駐車場整備地区に該当しないため、「宇和島市における建築物に附置する駐車場施設に関する条例」による駐車場附置義務はない。(=最低設置台数の設定はない)
- ・ 駐車場法に基づく「路外駐車場」に、技術的基準に適合させる必要はある。
- ・ 車いす使用者用駐車施設は、1台以上設けなければならない。
- ・ 駐車料金を徴収する場合、路外駐車場の設置届が必要。

③ 駐車場台数の検討

入館者を5万人と想定し、駐車台数を検討する。

- ・ 年間開館日数300日とすると、平均来館者数166人/日
- ・ 宇和島への来訪者の交通手段は約6割が自家用車
- ・ 1日あたり100人が自家用車利用とし2～3人で乗り合わせると想定すると、**33～50台分の駐車台数が必要**

④ 駐車場台数に係る考察

上記より駐車台数は、下記以上とする。

	大型バス	一般用	身障者用
新伊達博物館+天赦園	3台	38台	2台

(4) 配置の検討

①敷地ゾーニングの検討

敷地における敷地ゾーニング案（A～F 案）を、建物配置、駐車場配置、公園機能、天赦園との関係、宇和島城への眺望、建設コストの6つの視点で比較評価する。図面は資料編 P.41～46 を参照。

	評価基準	特徴	デメリット	評価
A 案	建物配置	ほぼ中央に配置。	北側道路側への圧迫感。 建物の裏（管理部門）が見えるので宇和島城からの景観に課題。	×
	駐車場配置	北東角。 新博物館、天赦園、偕楽園にも近い。	東側道路の交通量の増加。 宇和島城からの景観に課題。	△
	公園機能	既設遊具、トイレを再利用できる。	博物館と駐車場で広場が分断される。	△
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。	天赦園のトイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	○
	宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは新博物館が視界に入る。	○
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。 外構整備範囲を抑えることができる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設の可能性あり。	△

	評価基準	特徴	デメリット	評価
B 案	建物配置	ほぼ中央に配置。 北側道路側への圧迫感を抑えられる。	北側道路側に建物の裏（管理部門）が見えるので景観に課題。	×
	駐車場配置	博物館に近接。 東側道路の交通量を抑えられる。	天赦園から遠い。 偕楽園に遠い。	△
	公園機能	既設遊具、トイレを再利用できる。	博物館と駐車場で広場が分断される。	△
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。	天赦園のトイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	○
	宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。 外構整備範囲を抑えることができる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設の可能性あり。	△

	評価基準	特徴	デメリット	評価
C 案	建物配置	南西に配置。	近隣データによると、A案B案より地盤が悪い。	△
	駐車場配置	西側通学路沿い。 博物館に近接。	天赦園からは遠い。 西側通学路の交通量が増加。	×
	公園機能	まとまった広場を確保。 既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。	○
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。 天赦園の高木で圧迫感を軽減。		○
	宇和島城への眺望	茶亭からの眺望確保。 春雨亭からも眺望確保。	博物館からは宇和島東高校の高木で妨げられる可能性あり。	○
	建設コスト		A案B案より地下工事がかかる。 既設遊具の撤去。	×

	評価基準	特徴	デメリット	評価
D 案	建物配置	ほぼ中央に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
	駐車場配置	西側通学路沿い。 博物館に近接。	天赦園からは遠い。 西側通学路の交通量が増加。	×
	公園機能	まとまった広場を確保。 既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。	○
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。	天赦園トイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	△
	宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設。 既設遊具の撤去。	△

	評価基準	特徴	デメリット	評価
E 案	建物配置	ほぼ中央に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
	駐車場配置	西側通学路沿い、博物館に近接。 天赦園側にも分散配置。	西側通学路の交通量が増加。	×
	公園機能	既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。 広場としてのまとまりが薄れる。	△
	天赦園との 関係	天赦園への眺望確保。	天赦園トイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	△
	宇和島城へ の眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設。 既設遊具の撤去。	△

	評価基準	特徴	デメリット	評価
F 案	建物配置	ほぼ中央に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
	駐車場配置	現博物館跡地を再利用。 身障者用・職員用は博物館西側に配置。	天赦園、博物館まで遠い。	△
	公園機能	既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。	△
	天赦園との 関係	天赦園への眺望確保。 公園との一体整備が可能。	天赦園トイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	△
	宇和島城へ の眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設。 既設遊具の撤去。	△

[考察]

敷地中央に配置すると周囲を広場や緑で取り囲めるので、基本理念「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」の実現が可能。F案をベースに詳細検討を行う。

② 建物配置の詳細検討

前述の F 案をベースに、延床面積約 4000 m²の建物を想定し、さらに詳細に配置を検討する。

仮に 2 階建てを想定した建物配置で更に詳細な配置を検討する。図面は資料編 P.47、48 を参照。

	評価基準	特徴	デメリット	評価
配置案 1	建物配置	中央に配置。 西側学校施設から利用動線を確保。	建物の圧迫感がでる。	△
	駐車場配置	現博物館跡地を再利用。 身障者用・職員用は博物館西側に配置。 偕楽園の利用頻度を向上。	天赦園、博物館まで遠い。	△
	公園機能	既設遊具の再利用できる。 既設トイレの再利用できる。	広場が建物で分断される。	△
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。		○
	宇和島城への眺望	茶亭からの眺望確保。 博物館からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	△
	建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。		△

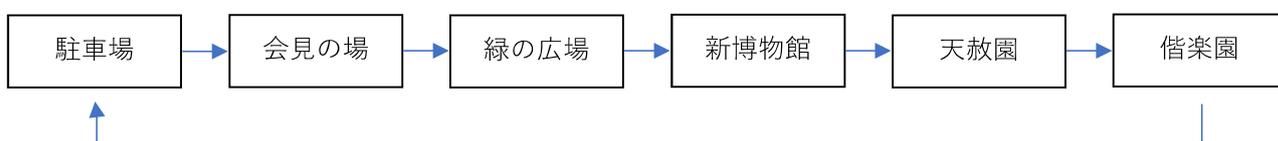
	評価基準	特徴	デメリット	評価
配置案 2	建物配置	西側に配置。 西側学校施設から利用動線を確保。	近隣データによると、中央より地盤が悪い。	△
	駐車場配置	現博物館跡地を再利用。 身障者用・職員用は博物館西側に配置。 偕楽園の利用頻度を向上。	天赦園、博物館まで遠い。	△
	公園機能	東側にまとまった広場を確保。	既設遊具の撤去。 既設トイレの撤去。	○
	天赦園との関係	天赦園への眺望確保。 天赦園の緑を借景に利用できる。		○
	宇和島城への眺望	茶亭からの眺望確保。 春雨亭からも眺望確保。	博物館からは宇和島東高校の高木で妨げられる可能性あり。	○
	建設コスト		地下工事費がかかる。 既設遊具、既設トイレの撤去。	×

③ 建物配置に係る考察

天赦園、現博物館敷地と一体的な整備で伊達文化エリア全体の魅力向上を実現

建物を中央に配置すると広場が分断されてしまうので、広場を東側に大きく確保できる配置案2が望ましい。広場を介して新博物館、天赦園、偕楽園の一体化が図れ、天赦園から宇和島城への眺望も確保できる。宇和島城からアクセスする来訪者には、緑の広場越しに新博物館が見え、基本理念「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」を実現できる。

駐車場は、新博物館西側に確保。現市営駐車場も残し活用するものとする。現市営駐車場を残すことで、繁忙期の駐車場不足解消に加え、偕楽園や「伊達宗城と西郷隆盛会見の場」の見学機会向上にも期待できる。



④ 今後の検討課題

i 液状化対策

近隣の地質調査データによると、海に近い敷地西側のデータが悪い。また天赦公園全体が、液状化の危険性 $30 < PL$ と最も危険性の高い評価であることから、土質調査等により地盤の特性を把握したうえで必要に応じて液状化対策を施す必要がある。

ii 既設トイレの取り扱い

公園トイレの機能は維持する。ただし新博物館の基本理念に「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」が掲げられているため、既設トイレが新博物館の景観の妨げとなる場合は、撤去・移転を検討する。



天赦公園内の既存トイレ

iii 天赦園との境界塀の改修

天赦園と天赦公園の間にあるブロック塀は、老朽化していること、いつの間にか緑のペンキで着色されていることから、安全面・景観上の観点から、新博物館建替えのタイミングで改修される事が望ましい。



天赦園のブロック塀

iv 宇和島城への景観改善化

敷地及び天赦園から宇和島城を望むと、電柱及び電線が視界に入り、折角の景観が損なわれている。電柱の地中化等景観改善化は、新博物館建替えのタイミングで検討される事が望ましい。



天赦公園からの宇和島城の景観

6. 事業概算

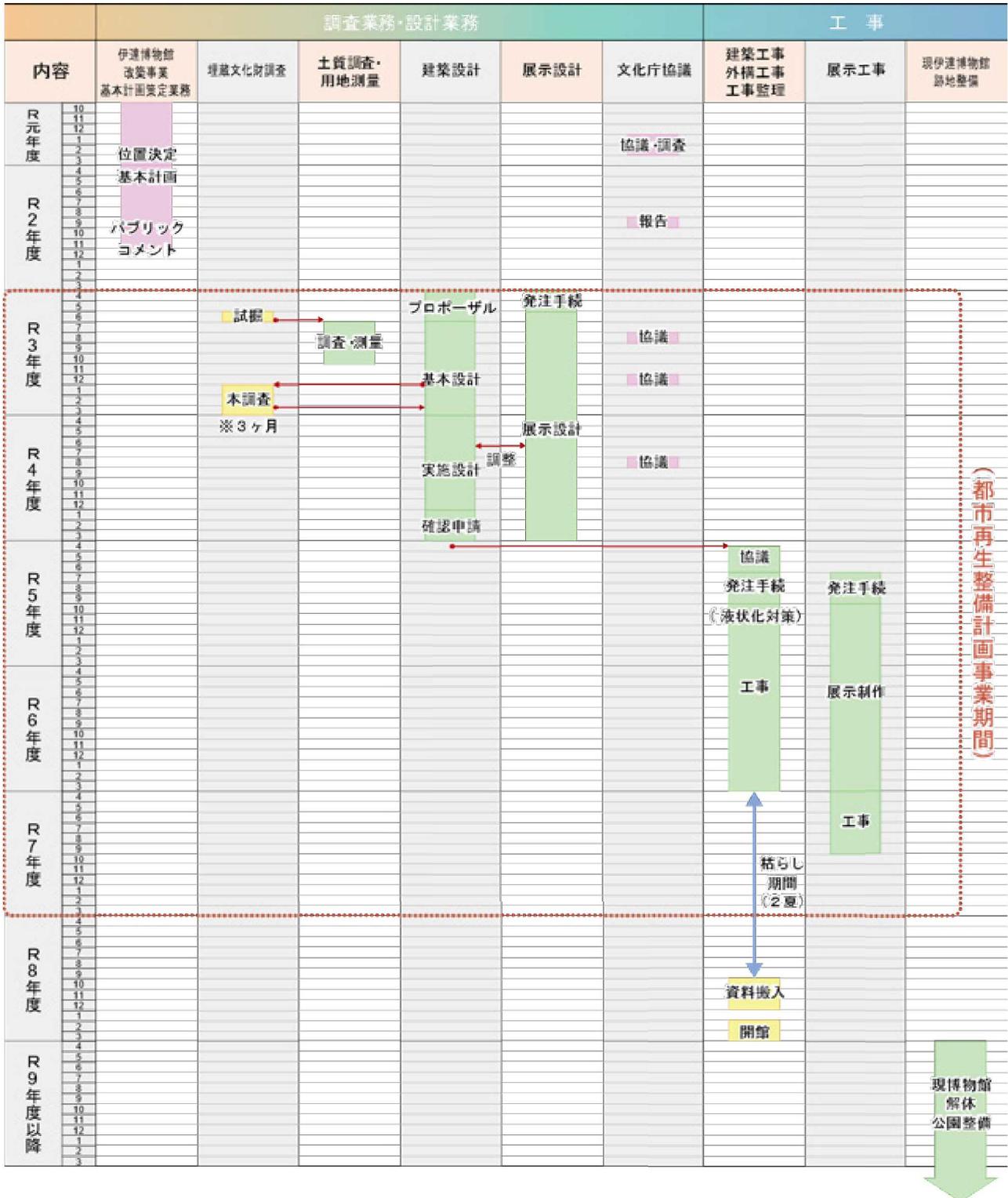
規模・機能が類似した施設の建設費用の㎡単価を基に事業概算を算出する。

消費税別

項目		金額	備考
設計費	土質調査費・用地測量費	250,000,000	
	建築設計費・工事監理費		
	展示設計費		
工事費	建築工事費	3,100,000,000	※博物館ゾーンは公開承認施設仕様
	展示工事費		※博物館ゾーンは公開承認施設仕様
	液状化対策費		※土質調査により変動する可能性あり
	外構費		※駐車場以外の現博物館敷地整備費除く
開館準備費	資料移設費	120,000,000	
	備品費・開館準備費		
跡地整備費	現博物館解体費	130,000,000	
	公園整備費		
事業費合計		3,600,000,000	

7. 事業スケジュール

2026（令和8）年度の開館をめざします。



9. 資料編

A案



評価基準	特徴	デメリット	評価
A 建物配置	ほぼ中央に配置。	北側道路側への圧迫感。 建物の裏（管理部門）が見えるので 宇和島城からの景観に課題。	×
駐車場配置	北東角。 新博物館、天赦園、借菜園にも近い。 西側通学路の交通量を抑えられる。	東側道路の交通量の増加。 宇和島城からの景観に課題。	△
公園機能	既設遊具、トイレを再利用できる。	博物館と駐車場が分断される。	△
天赦園との関係	天赦園への眺望確保。	天赦園のトイレ、月見亭と近接。 天赦公園への圧迫感。	○
宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは新博物館が視界に入る。	○
建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。 外構整備範囲を抑えることができる。	天赦園のトイレ、月見亭の移設の可能性あり。	△

B案



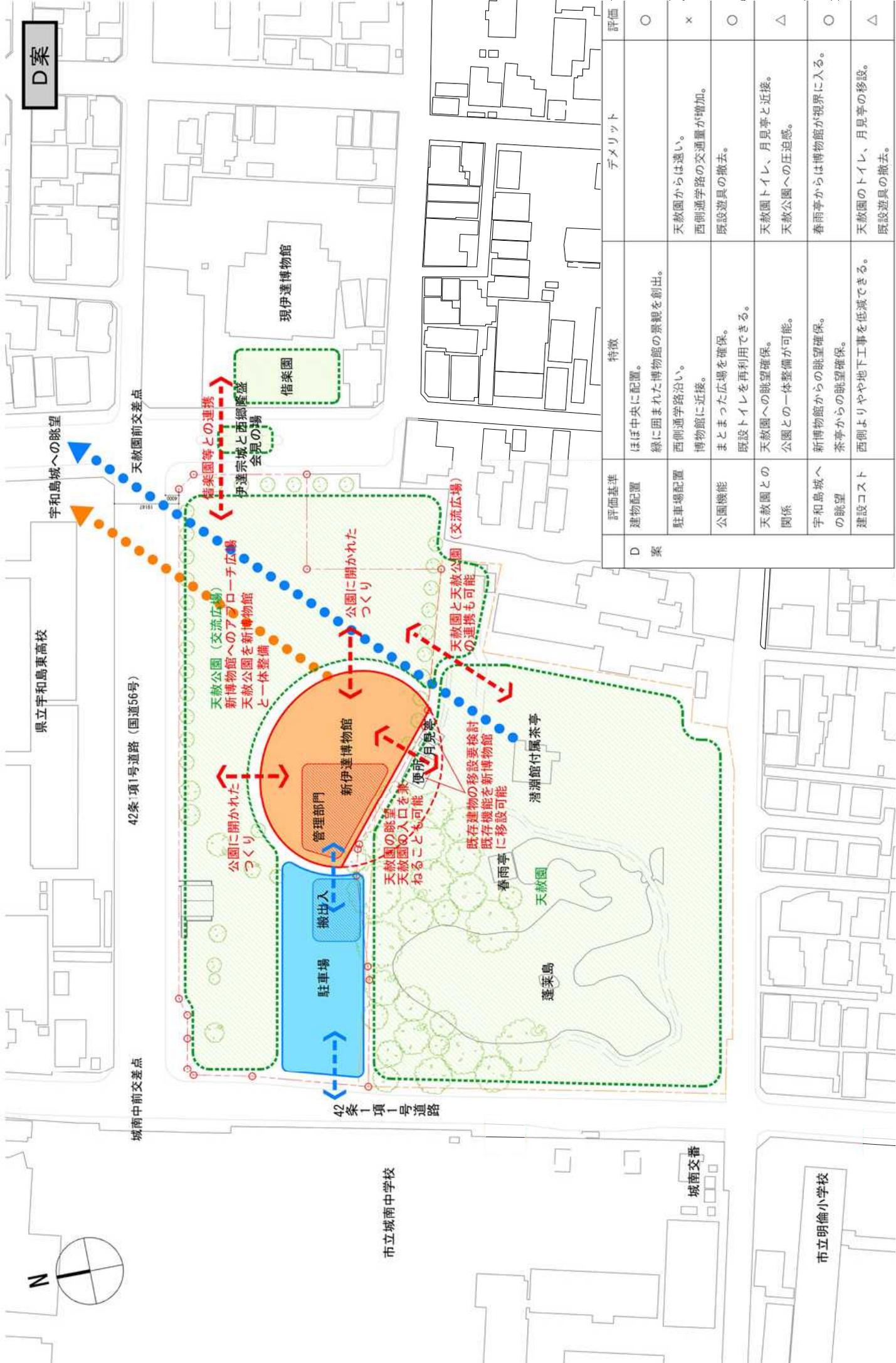
評価基準	特徴	デメリット	評価
B案 建物配置	ほぼ中央に配置。 北側道路側への圧迫感を抑えられる。	北側道路側に建物の裏（管理部門）が見えるので景観に課題。	×
駐車場配置	博物館に近接。 東側道路の交通量を抑えられる。	天敵園から遠い。 借楽園に遠い。	△
公園機能	既設遊具、トイレを再利用できる。	博物館と駐車場が分断される。	△
天敵園との関係	天敵園への眺望確保。	天敵園のトイレ、月見亭と近接。 天敵公園への圧迫感。	○
宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。 外構整備範囲を抑えることができる。	天敵園のトイレ、月見亭の移設の可能性あり。	△

C案



評価基準	特徴	デメリット	評価
C案	<p>建物配置 南西に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。</p> <p>駐車場配置 西側通学路沿い。 博物館に近接。</p> <p>公園機能 まとまった広場を確保。 既設トイレを再利用できる。</p> <p>天教園との関係 天教園の高木で圧迫感を軽減。 茶亭からの眺望確保。 春雨亭からも眺望確保。</p> <p>建設コスト</p>	<p>近隣データによると、A案B案より地盤が悪い。 天教園からは速い。 西側通学路の交通量が増加。 既設遊具の撤去。</p> <p>博物館からは宇和島東高校の高木で妨げられる可能性あり。 A案B案より地下工事がかかる。 既設遊具の撤去。</p>	<p>△</p> <p>×</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>×</p>

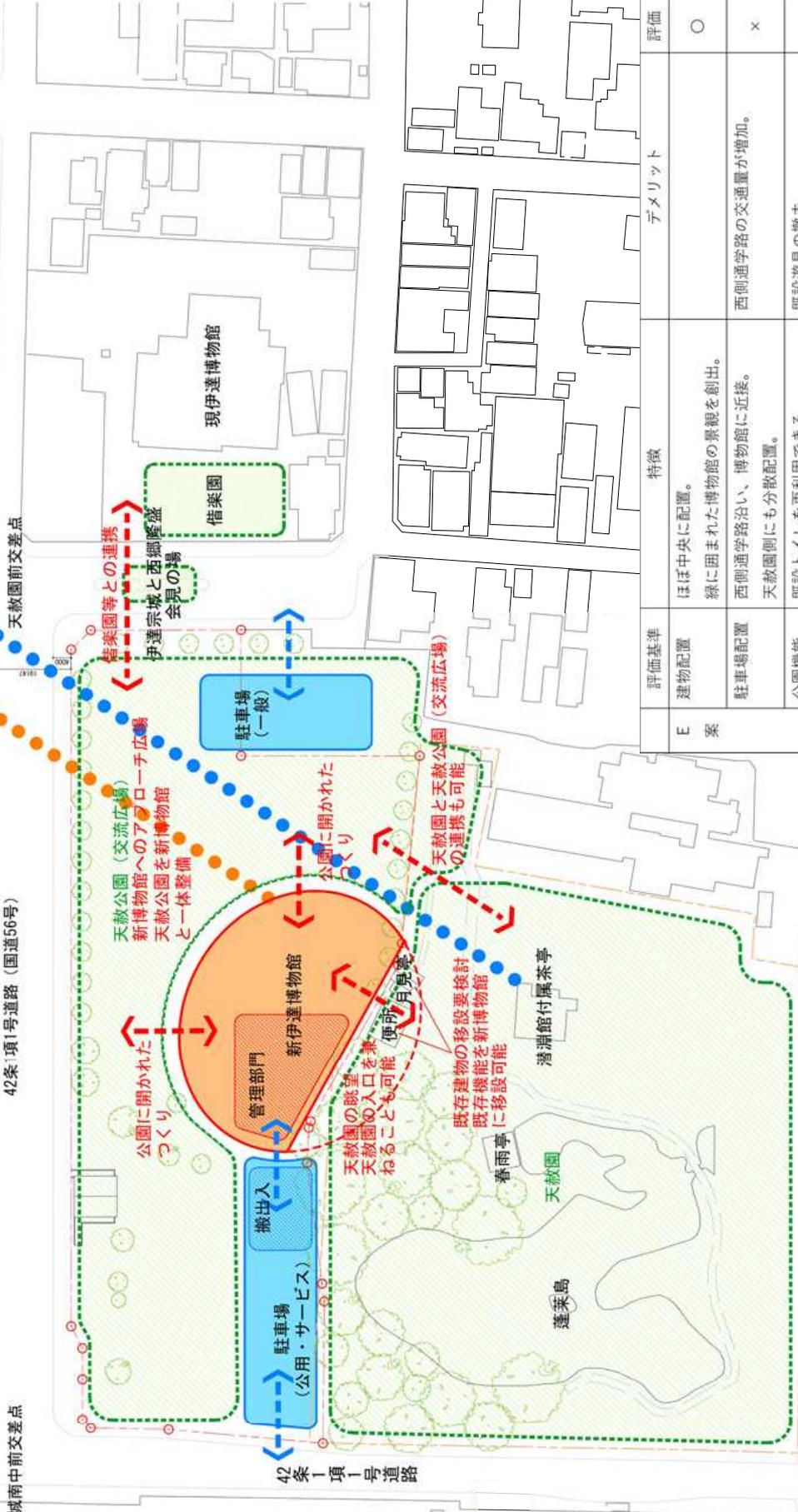
D案



評価基準	特徴	デメリット	評価
建物配置	ほぼ中央に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
駐車場配置	西側通学路沿い。 博物館に近接。	天教園からは遠い。 西側通学路の交通量が増加。	×
公園機能	まとまった広場を確保。 既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。	○
天教園との関係	天教園への眺望確保。 公園との一体整備が可能。	天教園トイレ、月見亭と近接。 天教公園への圧迫感。	△
宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。	天教園のトイレ、月見亭の移設。 既設遊具の撤去。	△

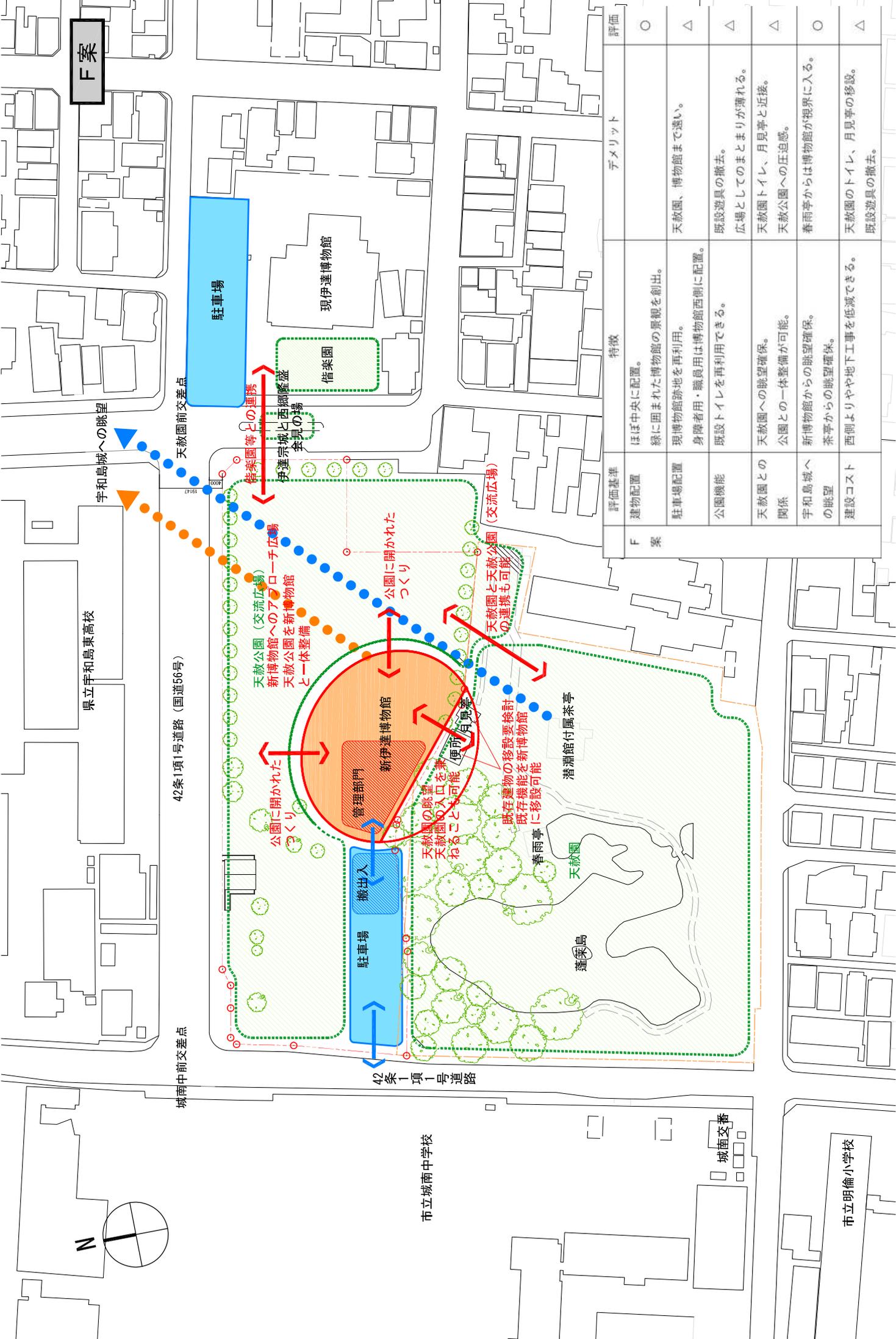


E案



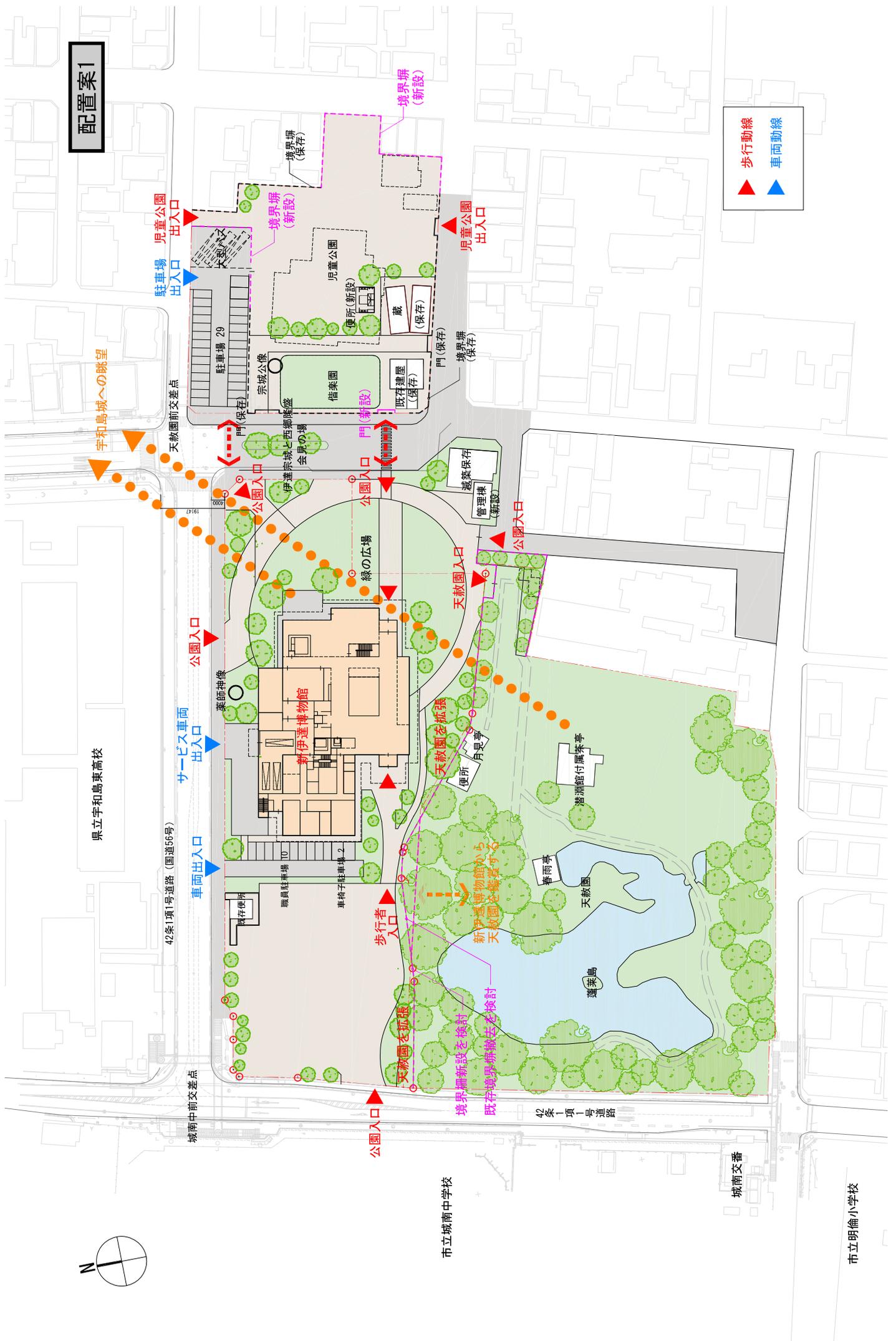
評価基準		特徴	デメリット	評価
建物配置	ほぼ中央に配置。	ほぼ中央に配置。緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
駐車場配置	西側通学路沿い、博物館に近接。	西側通学路沿い、博物館に近接。天敵園側にも分散配置。	西側通学路の交通量が増加。	×
公園機能	既設トイレを再利用できる。	既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。広場としてのまとまりが薄れる。	△
天敵園との関係	天敵園への眺望確保。公園との一体整備が可能。	天敵園への眺望確保。公園との一体整備が可能。	天敵園トイレ、月見亭と近接。天敵公園への圧迫感。	△
宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。茶亭からの眺望確保。	新博物館からの眺望確保。茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
建設コスト	西側よりややや地下工事を低減できる。	西側よりややや地下工事を低減できる。	天敵園のトイレ、月見亭の移設。既設遊具の撤去。	△

F案

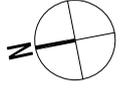


評価基準	特徴	デメリット	評価
F案	ほぼ中央に配置。 緑に囲まれた博物館の景観を創出。		○
建物配置	緑に囲まれた博物館の景観を創出。		
駐車場配置	現博物館跡地を再利用。 身障者用・職員用は博物館西側に配置。	天放園、博物館まで遠い。	△
公園機能	既設トイレを再利用できる。	既設遊具の撤去。 広場としてのまとまりが薄れる。	△
天放園との関係	天放園への眺望確保。 公園との一体整備が可能。	天放園トイレ、月見亭と近接。 天放公園への圧迫感。	△
宇和島城への眺望	新博物館からの眺望確保。 茶亭からの眺望確保。	春雨亭からは博物館が視界に入る。	○
建設コスト	西側よりやや地下工事を低減できる。	天放園のトイレ、月見亭の移設。 既設遊具の撤去。	△

配置案1



歩行動線
 車両動線



現狀敷地



② 兒童公園設置計画

工事中



② 児童公園設置計画

新博物館 完成後

